



常中 オリ・パラ通信



2018.1.11 (THU) No.2

○ <スポーツプロジェクト> シットイングバレーボールについて知ろう①

オリンピック・パラリンピック東京大会で行われます。競技はいくつあるか知っていますか。オリンピックで33競技、パラリンピックでは22競技行われます。その中で今回はオランダにゆかりのあるパラリンピック競技、シットイングバレーボールについて話したいと思います。

シットイングバレーボール (sitting volleyball) は、読んで字のごとく、座ったままで行うバレーボールのことです。健常者も脚に障害を持った人もともに楽しむことができるスポーツです。床におしりをつけたままボールを落とさないよう、手やうででボールを打ち合い、相手チームと得点を競います。1956年にオランダで考案されました。もともとは、戦争によって体が不自由になってしまったオランダの人々が、リハビリ (= 体や心をよくするための運動) としてはじめたのがきっかけだそうです。



国際大会は1967年から行われるようになり、1979年には国際身体障害者スポーツ機構 (ISOD) による初の公式の国際トーナメントがオランダのハールレムで開催されました。さらに1980年のアーネムパラリンピックで男子の部がパラリンピックの正式種目になり、世界中の人に知れ渡るスポーツとなりました。1993年からは女子の選手権大会も実施されており、パラリンピックにおいても2004年のアテネパラリンピックから女子の部が正式種目となりました。座りながらもプレーできるバレーボールとして、少しずつプレーヤーが増えてきました。

日本では、1992年にシットイングバレーボールのチームが結成され、世界選手権やパラリンピックで入賞を果たしており、日本代表は世界8位くらいのポジションだそうです。ちなみに日本女子代表の愛称は「煌めき JAPAN (きらめきジャパン)」です。

(参考: みんなのスポーツ http://min-spo.com/sports/sports_001.html)

○ <スポーツプロジェクト> シットイングバレーボールについて知ろう②

次にシットイングバレーボールのルールについて紹介します。

シットイングバレーボールのコートは10m×6mと一般のバレーボールのコートよりも狭く、ネットの高さも男子は1.15m、女子は1.05mで座りながら競技できる高さに設定されています。おしりを床につけたまま、ボールを落とさないよう相手コートに打ち込みます。サーブ、ブロック、アタックなどを行うときに立ち上がったたり、とびはねたりすると反則になり、相手に得点が入ってしまいます。バレーボールでは、サーブがネットにふれると反則ですが、シットイングバレーボールは反則にはなりません。これらのルール以外はほとんど一般のバレーボールと変わりません。6人1チームで対戦し、25点 (= 1セット) を3回先にとったチームが勝ち。5セットまで試合をつづけることができ、最後の第5セットのみ15点を得点したチームが勝ちというのが競技ルールとなっています。

今後、体育の授業で改めて紹介したり、実際に競技したりすることがあると思いますが、休み時間等に友達同士でやってみてはいかがでしょうか。

(文責: 梅津 潤一)